

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	14950300103	事業の開始年月日	平成22年4月1日
		指定年月日	平成22年7月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム高津		
所在地	( 213-0034 ) 川崎市高津区 上作延 833-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅街の中で、大きな一軒家としてまわりに溶け込んでいます。まわりに、畑が広がり梅林が目の前に広がります。2月には梅の花を愛でて6月には梅の実を拾い、漬けます。8月には梅漬けを干して、10月には、食卓に梅干しがのぼります。食事・装飾品等、手作りをしています。利用者様が、編み物をしたり、雑巾を縫ったりします。コロナ禍でガレージセールできませんでしたが、布巾・梅酒は好評で、完売でした。重度化された方を大事にケアいたします。お看取りをさせていただいています。今年に入り3人の方が旅立たれました。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年11月10日	評価機関 評価決定日	令和3年12月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は東急田園都市線「梶が谷駅」、「溝の口駅」より市バスにて、最寄りバス停「しばられ松」または「上作団地前」下車徒歩5分で高台のところにあります。木造2階建て2ユニットの事業所です。近くには農園や公園、小学校があり静かな住環境です。玄関前の花壇には常に季節の花が咲いています。

<優れている点>

事業開設後15年余、開設当初からの管理者や経験豊富な在籍職員も多く、安定したサービスと温かい家族的な雰囲気に包まれた事業所です。開設時に入居し、100歳を迎えた利用者も複数います。利用者は、長い間家族の一員として共に暮らし、温かい職員らに見守られ、終末期を迎えた利用者が多数います。毎日の食材は職員が調達しています。利用者の好みに合わせ手作りの料理を提供しています。利用者は職員と一緒にテーブルを囲んで共に食事を楽しんでいます。敷地内には広い菜園があり園芸ボランティアや利用者、職員と四季折々の野菜を作り、生育の楽しみや収穫して食卓で賞味する喜びがあります。法人の研修や社内の資格取得と介護の専門資格取得支援制度があり、人材の育成とスキルアップでサービスの向上に取り組んでいます。

<工夫点>

排泄のケアでは職員共通の「隠語」を作り、利用者の尊厳や自尊心を損なうことのないよう、配慮した声掛けでケアに当たっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム高津
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々のケア現場において理念を共有しています。月一度開催のミーティング等を通し、振り返る機会を設けています。	理念は開設時に作り、事業所独自の理念です。利用者の現有機能の維持改善を目指し、より良い暮らしをモットーに理念の実践に努めています。職員は毎月のミーティングで振り返り、確認し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の敬老会等の行事に利用者が参加し、又ホームの行事に地域の住民の方をお呼びしたり、触れ合う機会を設けています。散歩などの日々のケア時にも交流を図るようにしています。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ています。コロナ禍前は町内の祭りや事業所の夏祭りで地域の人達との交流がありましたが現在は自粛しています。スーパーマーケットでの食材の購入の際や、事業所の畑の園芸ボランティアとの交流は継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームを開放的にし、行事等では、地域住民の方と、認知症の方と身近に触れ合ってもらい、理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で決定した事、意見、要望は、すぐに反映できるよう努めています。利用者さんも会議に出られ、意見を出しておられます。	コロナ禍の現況では外部委員の参加を自粛し、内部の書面会議としています。内容は事業所の活動状況や運営状況で議事録に残しています。	運営推進会議の委員である、町内会代表や地域包括支援センター担当、民生委員、家族代表などに都度、議事録を送り情報の共有を図ることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	川崎市役所・区役所・福祉事務所等と相談、報告を行っています。運営推進会議への出席も含めて包括支援センターと連絡を取り、相談、報告をしております	行政とは利用者の介護認定の申請代行やケースワーカーとの連携をしています。行政からの「運営状況点検書」を作成しています。包括支援センターとは空室情報などの情報交換をしています。ゴミ収集の特別認可を行政から得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	開放的な環境作りに努め、自立を尊重しています。見守り、気配りは怠らない努力をし、拘束廃止委員会を立ち上げています。全職員が、身体拘束ゼロを目指したケアを日々実践しています。	事業所の方針は運営規定に明記しています。内部の研修や「身体拘束廃止委員会」などを通して周知しています。不適切な言動などの事例があれば申し送りノートやカンファレンスで取り上げ啓蒙に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	見過ごされることのないよう職員全体で、気配りしています。カンファレンスを密にし、マニュアル、資料を活用して、研修を行い防止に取り組んでいます。	事業所の指針は重要事項説明書に謳っています。研修やマニュアルで職員は理解しています。職員は「虐待及び拘束等の点検シート」でふり返り、確認をしています。法人本部からも巡回に来訪し、虐待防止の啓蒙に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修に参加をして、その方の必要に応じて、成年後見制度を活用しています。これから申し立てをして、活用予定の方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族等が納得できるよう、十分な説明に努めています。解約・改定に関しては、話し合いの上、期間を経ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や、日々の訪問等から、意見や要望を聞きとり、汲み取るようにして、それらをケア反映するように努めています。	コロナ禍により家族との面会は玄関先にとどめ自粛するようにしています。利用者の全体の活動状況は「スマイル」の季刊発行と併せて個別で心身の状況などを添えてメールで家族に届けています。日頃から電話などでこまめにコミュニケーションを図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り・月一回のミーティングで、意見を聞けます。必要に応じて、個別に話し合いも設けます。申し送りノートも活用しています。	毎月のユニット会議や合同会議で職員の意見や要望、提案を聞いています。個人面談の機会もあります。防災器具や備品の購入などの要望や提案は運営に活かしています。利用者のケアや行事、イベントなど意見や企画提案は運営に反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者と職員とは普段より、コミュニケーションを密に行っています。本社には、職員が相談できる窓口があり皆さんの目につくところにポスターを掲示しています。	管理者は日頃から職員の悩みや相談には適切に対応しています。介護疲れやストレスなどを癒す休憩室があります。有給休暇の取得の奨励をしています。シフトの作成では職員の都合や要望を反映しています。人事考課や昇給の制度もあります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で、なかなか外部へ、でかけての研修に参加できませんでしたが、オンラインで、社内の研修には皆さん参加しています。社内での資格を取り、増収に繋がっています。	年間の研修計画があります。法人の社内資格取得、介護の専門資格取得支援制度があり、人材の育成とスキルアップの向上に努めています。これらの制度は職員、パート職員のモチベーションの向上に繋がっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会等の交流は、コロナ禍でできていませんが、オンラインでの勉強会は参加しています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初めてお会いし、アセスメントを行う段階から、日々のケアの実践時も、ほんにんの不安解消のため、常にけいちょうして、目配りをして、信頼関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、施設見学していただき、説明をして、家族等からもアセスメントを行い不安や困難を、くみ取っております。サービス開始した後も連絡を密にして、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族等が必要としている支援を、アセスメント等の段階で、丁寧に対応して見極め、対応に当たっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	全職員が本人の不安や困難を受け止め、理解して、暮らしを家族のような対応を目指し、より良いケア・統一したケアの確立のために、情報を共有し、関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	全職員が家族の立場を理解して共に本人にとってより良いケアの確立のために、情報を共有し、関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時、自宅でなじんで使っていた家具等を持参していただいています。コロナ禍の為面会・外出に制限がありますが、事態に応じて支援しております。	手紙や電話の交信の継続支援をしています。コロナ禍前は家族の協力で彼岸の墓参りや旅行、外泊、馴染みの理美容などの支援をしていましたが今は自粛中となっています。編み物や縫い物、絵などの趣味やパン食、コーヒー、お茶などの嗜好の継続支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個性を尊重し、集団生活の中での役割を見つけ、互いが思いやりを持ち、心ある関係で、支えあえるようにと支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	解約後もれんらくとうをおこない、必要に応じて、相談業務などに努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアを通し、本人の意向や希望を把握するように努めています。ご家族等の話からくみ取ることもあります。意思の疎通が、困難なかにたいしては、表情、態度、持参の荷物から考察して把握に繋げています。	アセスメントや日頃の会話を通して把握しています。入浴や散歩、夜間など職員と1対1の場で把握しています。意思表示の困難な利用者は表情や態度などのサインで汲み取るようにしています。生活歴や家族の協力で得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の関係のあった方、馴染みのある方などや、ご家族から生活歴・価値感の把握等の、情報収集に、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のケアで、現状の把握をして、朝・夕の送り会議、介護記録、等を共有することで、全職員が把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の現状にあった計画を、本人・家族の意見を取り入れ作成して、へんこうも随時行っています。職員間では、ケアカンファレンスを実施してより良い介護への意見交換を行っています。	定期的な計画作成やモニタリングのほか、日々の職員の気づきや意見は「申し送りノート」で共有し、個々の状態の変化に応じたきめ細かい支援の見直しにつなげています。ケアカンファレンスは1、2ヶ月に1回、その他必要に応じて開催しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、健康管理帳票とうを、作成しています。気づき工夫等は申し送りノートを駆使して、情報を共有しています。微細なことも記録に残すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出・外泊・通院等できる限り、要望に沿った対応を行っていました。通院や外出も状況に合わせ職員が対応しています。がしかしコロナ禍で、面会・外出・外泊ができていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	傾聴ボランティア、実習生の訪問を受けています。楽しい時間を共有しています。ですが、コロナ禍で、訪問は敵いません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の状態に合わせた、医療機関を選んでいきます。ご家族・本人の希望を考慮します。急変時等は、かかりつけ医の指示を受けます。コロナワクチン接種等も実施しています。	かかりつけ医の選択については事業所の協力医療機関に限定せず、家族・本人の希望に沿った対応をしています。通院の付添いは職員が行っています。受診結果についても電話や郵送により家族との共有に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は、健康管理を行い、24時間連絡・対応をできる体制を作っています。介護職へ指示を行います。医療行為・エンゼルケアも実施します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを提出します。面会時、MSWの方とともに、その方の退院に向けて、情報交換して、話し合いを密に行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	サービス開始時にホームの方針を説明しています。重度化対応及び看取りに向けての指針等も作成して、本人・ご家族の意思も確認しています。	「重度化対応及び看取りケアに関する指針」の説明後、家族から「意思確認書」を収受しています。主治医や看護師と連携の下、家族が納得できる看取り支援に努めています。管理者を講師とした看取りの研修を行い、チーム力の向上を目指しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	所内研修で、学び、マニュアルも作成して、緊急時に備えています。応急処置等も実践しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練を実施しています。利用者・職員共に意識付け及び方法を体得しています。災害時には周辺住民の方に協力していただけるようお願いしています。	風水害想定訓練では、徒歩、おんぶ、非常用発電を用いたエレベーターの使用などにより1階の入居者全員を2階へ垂直避難させる訓練を行っています。自治会役員、社内エリアマネージャー、近隣在住職員には災害時の協力を依頼しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に、表情や言葉使いに気配りを忘れず、お一人お一人を尊重し対応しています。排泄・入浴に関しては特に注意深く行っています。同性介助の希望に添えるようにしています。	管理者は申し送りノートにより接遇マナーの注意を喚起しています。排泄支援の際は直接的表現を避け羞恥心に配慮しています。入浴は無理強いせず散歩後に再誘導するなどの工夫をしています。同性介助の希望はアセスメント時に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアを通して、表情や、言動から、お思いをくみとっています。その方と係る時間を大切に、利用者様の自己決定に繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人お一人の体調や、状況に配慮し、本人の思いに沿った個別性のある支援を行っています。基本的な一日の流れの時間は決まっていますが、入浴時間・食事時間等、柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の更衣の服選び・整容に関して、職員が、そのかたの選択・決定に関与して支援しています。又、衣服等の購入への支援をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事内容もその方の好み・食事形態に応じて対応しています。手作りの食事で、良い香りが充満します。コロナ禍で、一緒に食事はとりませんが、調理・後片付けは、職員とともに個々の能力に応じて行っていただいています。	食事は職員の手作りで、かぶ、小松菜など自家菜園の野菜も取り入れ、梅干しも漬けています。火曜日の昼の献立は利用者の希望を聞いて決めています。利用者は食堂のテーブル拭き、もやしのひげ根とりなど食事の準備や調理にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分摂取量を記録して、随時、水分の接種を支援しています。お一人お一人の体調に合わせて、ミキサー食も対応しています。栄養バランスにも気を配ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立で口腔ケアができない方、その方の体調に合わせて、口腔スポンジ等でケアを行っています。歯科検診・受診もできるよう支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その方の排泄のリズム・習慣を把握して、排泄の失敗を減らすために声掛け、誘導を行っています。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っています。昼間は下着を使用し、夜間のみリハビリパンツ、パットを使うなど、個々の利用者に応じた排泄の工夫をして自立排泄に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝・夕の体操、散歩等運動を推進しています。水分の摂取、繊維質の食材を使い食事作りを心がけています。その上体調に合わせて主治医の指示のもと服薬管理を行います。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に、入浴日時間は決まっていますが、自立で、週5回入浴希望の方には入浴してもらっています。同性介助も考慮しています。	週2日、職員がマンツーマンで入浴支援をしています。湯の温度、一番風呂、シャンプーの種類など利用者の希望に応じた支援に努めています。個々の状態に留意しつつ本人の機能を活かせる様に介助を工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ホーム内の温度管理は万全に行います。寝具は天気に応じて日に干します。シーツ類の選択も定期的に行っていて、心地良い安眠の場を作ります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が、情報を共有して、扱いについては、ダブルチェックして、誤薬の無いように、キチンと対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人得意な分野で、役割分担をして、生き甲斐に繋げています。そののち感謝の言葉を添えています。お茶の時間は好きなもの・お茶・珈琲・紅茶・ジュース等毎回伺ってお出ししています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣のところを職員と散歩には出ていますが、コロナ禍で、希望に沿う外出はできていません。	希望する利用者には、職員がほぼマンツーマンでつき、近隣の散歩を日課としています。また、コロナ禍においても外出支援の方法を工夫し、車3台に分乗し、桜の名所として有名な公園を巡るドライブで花見も楽しんでいきます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事務所の金庫でお預かりしています。ご本人の嗜好品・必要品の購入もコロナ禍なので、職員が代行しています。お預かり金出納帳を作成して、ご家族・ご本人に確認していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を居室で使用している方も、います。電話をかける希望に応じて、ホームの電話を使用いただいています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは換気に気を付け、温度調節を心がけて居心地の良いスペースにしています。手作りカレンダー等利用者様のでつくりを装飾したりして、生き甲斐作りにも関与しています。	リビングに好みの音楽を流したり、椅子には座り心地のよい座布団を敷くなど、居心地よく過ごせるよう工夫しています。壁面には折り紙等で作った季節の花々を飾り、明るい雰囲気づくりに努めています。手すりや椅子などのアルコール消毒を、朝晩念入りに行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席は人間関係等を考慮しています。ご容態に応じて席を変えたり、考えてもいます。ゆったりしたソファは、談笑したり、テレビを見たり自由に使用できて、寛いでいらっやいます。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はその方の使い慣れた物・筆筒・テレビ・カーテン等を設置しています。清掃・整頓等お一人で、できない方には、支援しています。	各居室にはドライフラワー、ぬいぐるみ、表彰状など好みの小物やテレビ、馴染みの家具などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしています。清掃、換気、布団干しなど、衛生面の保持にも留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室や、トイレ等、分かりやすく表示を付けて、ご自分で居室へ入室したり、排泄等は自立でできるような、環境作りをしています。皆さんが歩行するスペースは何も置かず安全を確保しています。		

事業所名	グループホーム高津
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々のケア現場において理念を共有しています。月一度開催のミーティング等を通し、振り返る機会を設けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の敬老会等の行事に利用者が参加し、又ホームの行事に地域の住民の方をお呼びしたり、触れ合う機会を設けています。、散歩などの日々のケア時にも交流を図るようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームを開放的にし、行事等では、地域住民の方と、認知症の方と身近に触れ合ってもらい、理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で決定した事、意見、要望は、すぐに反映できるよう努めています。利用者さんも会議に出られ、意見を出しておられます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	川崎市役所・区役所・福祉事務所等と相談、報告を行っています。運営推進会議への出席も含めて包括支援センターと連絡を取り、相談、報告をしております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	開放的な環境作りに努め、自立を尊重しています。見守り、気配りは怠らない努力をし、拘束廃止委員会を立ち上げています。全職員が、身体拘束ゼロを目指したケアを日々実践しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	見過ごされることのないよう職員全体で、気配りしています。カンファレンスを密にし、マニュアル、資料を活用して、研修を行い防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修に参加をして、その方の必要に応じて、成年後見制度を活用しています。これから申し立てをして、活用予定の方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族等が納得できるよう、十分な説明に努めています。解約・改定に関しては、話し合いの上、期間を経て行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や、日々の訪問等から、意見や要望を聞きとり、汲み取るようにして、それらをケアに反映するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り・月一回のミーティングで、意見を聞けます。必要に応じて、個別に話し合いも設けます。申し送りノートも活用しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者と職員とは普段より、コミュニケーションを密に行っています。本社には、職員が相談できる窓口があり皆さんの目につくところにポスターを掲示しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で、なかなか外部へ、でかけての研修に参加できませんでしたが、オンラインで、社内の研修には皆さん参加しています。社内での資格を取り、増収に繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会等の交流は、コロナ禍でできていませんが、オンラインでの勉強会は参加しています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初めてお会いし、アセスメントを行う段階から、日々のケアの実践時も、ほんにんの不安解消のため、常にけいちょうして、目配りをして、信頼関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、施設見学していただき、説明をして、家族等からもアセスメントを行い不安や困難を、くみ取っております。サービス開始した後も連絡を密にして、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族等が必要としている支援を、アセスメント等の段階で、丁寧に対応して見極め、対応に当たっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	全職員が本人の不安や困難を受け止め、理解して、暮らしを家族のような対応を目指し、より良いケア・統一したケアの確立のために、情報を共有し、関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	全職員が家族の立場を理解して共に本人にとってより良いケアの確立のために、情報を共有し、関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時、自宅でなじんで使っていた家具等を持参していただいています。コロナ禍の為面会・外出に制限がありますが、事態に応じて支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個性を尊重し、集団生活の中での役割を見つけ、互いが思いやりを持ち、心ある関係で、支えあえるようにと支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	解約後もれんらくとうをおこない、必要に応じて、相談業務などに努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアを通し、本人の意向や希望を把握するように努めています。ご家族等の話からくみ取ることもあります。意思の疎通が、困難なかたにたいしては、表情、態度、持参の荷物から考察して把握に繋げています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の関係のあった方、馴染みのある方などや、ご家族から生活歴・価値感の把握等の、情報収集に、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のケアで、現状の把握をして、朝・夕の送り会議、介護記録、等を共有することで、全職員が把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の現状にあった計画を、本人・家族の意見を取り入れ作成して、へんこうも随時行っています。職員間では、ケアカンファレンスを実施してより良い介護への意見交換を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、健康管理帳票とうを、作成しています。気づき工夫等は申し送りノートを駆使して、情報を共有しています。微細なことも記録に残すようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出・外泊・通院等できる限り、要望に沿った対応を行っていました。通院や外出も状況に合わせ職員が対応しています。がしかしコロナ禍で、面会・外出・外泊ができていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	傾聴ボランティア、実習生の訪問を受けています。楽しい時間を共有しています。ですが、コロナ禍で、訪問は敵いません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の状態に合わせた、医療機関を選んでいきます。ご家族・本人の希望を考慮します。急変時等は、かかりつけ医の指示を受けます。コロナワクチン接種等も実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は、健康管理を行い、24時間連絡・対応をできる体制を作っています。介護職へ指示を行います。医療行為・エンゼルケアも実施します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを提出します。面会時、MSWの方とともに、その方の退院に向けて、情報交換して、話し合いを密に行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	サービス開始時にホームの方針を説明しています。重度化対応及び看取りに向けての指針等も作成して、本人・ご家族の意思も確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	所内研修で、学び、マニュアルも作成して、緊急時に備えています。応急処置等も実践しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練を実施しています。利用者・職員共に意識付け及び方法を体得しています。災害時には周辺住民の方に協力していただけるようお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に、表情や言葉使いに気配りを忘れず、お一人お一人を尊重し対応しています。排泄・入浴に関しては特に注意深く行っています。同性介助の希望に添えるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアを通して、表情や、言動から、お思いをくみとっています。その方と係る時間を大切に、利用者様の自己決定に繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人お一人の体調や、状況に配慮し、本人の思いに沿った個別性のある支援を行っています。基本的な一日の流れの時間は決まっていますが、入浴時間・食事時間等、柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の更衣の服選び・整容に関して、職員が、そのかたの選択・決定に関与して支援しています。又、衣服等の購入への支援をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事内容もその方の好み・食事形態に応じて対応しています。手作りの食事で、良い香りが充満します。コロナ禍で、一緒に食事はとりませんが、調理・後片付けは、職員とともに個々の能力に応じて行っていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分摂取量を記録して、随時、水分の接種を支援しています。お一人お一人の体調に合わせて、ミキサー食も対応しています。栄養バランスにも気を配ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立で口腔ケアができない方、その方の体調に合わせて、口腔スポンジ等でケアを行っています。歯科検診・受診もできるよう支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その方の排泄のリズム・習慣を把握して、排泄の失敗を減らすために声掛け、誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝・夕の体操、散歩等運動を推進しています。水分の摂取、繊維質の食材を使い食事作りを心がけています。その上体調に合わせて主治医の指示のもと服薬管理を行います。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に、入浴日時間は決まっていますが、自立で、週5回入浴希望の方には入浴してもらっています。同性介助も考慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ホーム内の温度管理は万全に行います。寝具は天気に応じて日に干しします。シーツ類の選択も定期的に行っていて、心地良い安眠の場を作ります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が、情報を共有して、扱いについては、ダブルチェックして、誤薬の無いように、キチンと対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人得意な分野で、役割分担をして、生き甲斐に繋げています。そののち感謝の言葉を添えています。お茶の時間はお好きなもの・お茶・珈琲・紅茶・ジュース等毎回伺ってお出ししています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣のところを職員と散歩には出ていますが、コロナ禍で、希望に沿う外出はできていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事務所の金庫でお預かりしています。ご本人の嗜好品・必要品の購入もコロナ禍なので、職員が代行しています。お預かり金出納帳を作成して、ご家族・ご本人に確認していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を居室で使用している方も、います。電話をかける希望に応じて、ホームの電話を使用いただいています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは換気に気を付け、温度調節を心がけて居心地の良いスペースにしています。手作りカレンダー等利用者様のでつくりを装飾したりして、生き甲斐作りにも関与しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席は人間関係等を考慮しています。ご容態に応じて席を変えたり、考えてもいます。ゆったりしたソファは、談笑したり、テレビを見たり自由に使用できて、寛いでいらっしゃいます。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はその方の使い慣れた物・筆筒・テレビ・カーテン等を設置しています。清掃・整頓等一人で、できない方には、支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室や、トイレ等、分かりやすく表示を付けて、ご自分で居室へ入室したり、排泄等は自立でできるような、環境作りをしています。皆さんが歩行するスペースは何も置かず安全を確保しています。		

2021年度

事業所名 グループホーム高津

作成日： 2021 年 12 月 25 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	職員を育てる仕組み 法人の社内研修に対して、中々時間を 作れない。	全員が受講する。	パート職員さんから、受講して、内部 資格を取っていただき、報酬のアップ にもつなげる。	6ヶ月
2	3	運営推進会議の委員さんの出席を中々 望めない。	コロナの状況次第でお集まりいただ く。	運営推進会議開催がなかなか望めない ので、紙面開催を中身の充実したもの を作成する。年度替わりで、役員さん も変わるので、ご挨拶を行う。	5ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月